

Letter from Samoa

サモア通信 2nd
Oct.2017
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!サモア通信第2号です！南高祭が終わり、日本では秋の訪れを感じている頃でしょうか。こちらサモアでは、村でホームステイが始まると同時に、学校にも赴任し、活動が始まりました。今回はサモアの学校について紹介したいと思います。

○サモアの教育システム

サモアでは「小学校→カレッジ（中高等学校）→大学」という形で構成されています。小学校はYear1～Year8(日本の年長～中1に相当)の8年間、カレッジはYear9～Year13(日本の中2～高3に相当)の5年間、大学はサモアには2つしかありませんが基本的には4年間です。

○サモアのカレッジ

自分はサモアのカレッジに派遣されているので、サモアのカレッジについてお伝えしたいと思います。赴任校のサガガカレッジ（以下サガガ）は5学年9クラス、生徒数は250人程度の学校です。

○授業について

システムは日本とよく似ています。月～木は7時間授業、金曜日は4時間授業（1コマ40分）、土日休み。2時～3時くらいに1日が終わります。とってもゆとりがある学校生活です。時間になったら教科担任の先生が教室に行って授業をやっているところも

日本と同じですね。写真は教室での授業の様子です。



○自分の活動

自分の職種は「理科教育」です。与えられた任務としては以下の3つです。①生徒に直接授業をすること、②教員に実験のやり方等の指導法を指導すること、③帰国後も理科教育が継続するようなシステム作りをすること。③については理科室の設置、実験マニュアルの作成、教員用の指導ガイド作成、大学での講師等が考えられます。①～③以外にも、理科に関わらずいろいろなことに対して「積極的に」、でも、「ゆったりと」サモアスタイルで活動を展開していきたいと思っています。写真はBTB 溶液の使い方方を理科の先生に教えている様子です。



○衝撃の事実

サガガでは入学時は120人（40人3クラス）です。しかし、現在、最高学年Year13は18人です。様々な事情があり、退学してしまうのです。カレッジを卒業することが当たり前ではない文化もあるのでしょうか。ただ、この事実を知った時、悲しい気持ちになりました。人生で今しか経験することができないカレッジ生活を楽しく過ごしてもらいたい。そのお手伝いが少しでもできたらなあと思います。南高校のみなさんも今しかない高校生活を「いつも笑顔で元気に」時には休憩しながら、楽しく過ごして欲しいと思います。それではみなさんお元気で！Fa soifua(ファーソイファ、サモア語でさようなら)